



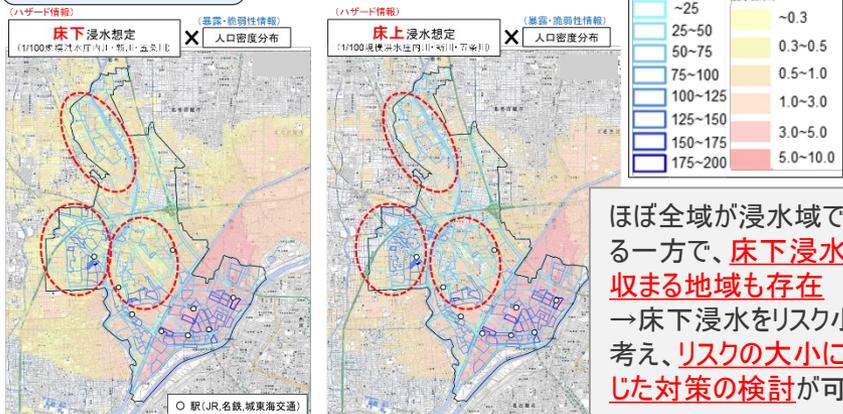
清須市水まちモデル都市としての検討

【愛知県 清須市】

- 人口: 69,401人 (令和3年3月1日現在)
- 面積: 1,735ha
- 主な河川: 庄内川, 新川, 五条川 等



水害リスク評価



【考慮すべき事項】

- 公共交通機関や主要道路の整備に伴い、市街地が拡大
- 地理的要因により、水害リスクが高くなる箇所が存在
- 全国的に人口減少が本格化する中、清須市では人口増加傾向にある
- 都市計画マスタープラン上で、都市拠点及び地域生活拠点の形成、良好な市街地の形成が位置付けられている

防災まちづくりの方向性

「リスクがあっても都市的土地利用を継続していく」

※水害リスク評価の結果を踏まえ、エリア毎にまちづくりの方向性を検討

	水害リスク	まちづくりの方向性	考えられる対策		
			災害発生防止	人的被害最小化対策	財産被害最小化
エリアA	中	①リスク軽減方策を検討、土地利用を継続	調整池整備 公共下水道整備 雨水貯留施設設置補助	避難所・避難路整備 地域ハザードマップ作成 自主防災組織連携	かさ上げ 容積率緩和
エリアB	中	①リスク軽減方策を検討、土地利用を継続		地域ハザードマップ作成 自主防災組織連携	
エリアC	大	①リスク軽減方策を検討、土地利用を継続	移転促進		広域避難 地域ハザードマップ作成
		②浸水深50m以上に限り住居としての土地利用を制限			

具体的なリスク回避・軽減方策

(例) エリアCにおける検討

エリアCの特徴

- ・人口密度・高齢者人口密度が高く 殆ど全域で床上浸水が発生
- ・床上浸水発生箇所に避難所多数存在

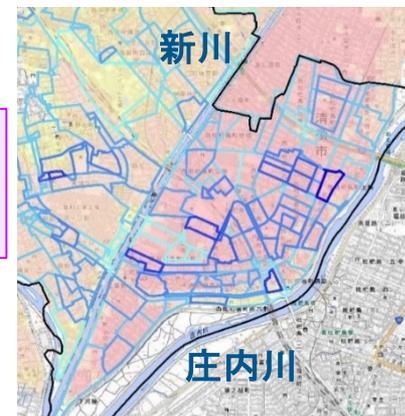
【詳細な検討が必要な対策】

災害防止対策

- 調整池の整備
- 公共下水道(雨水)の整備
- 雨水貯留施設の補助
→ 雨水貯留槽、浸透枳の設置補助

財産被害最小化対策

- 宅地のかさ上げ
→ 浸水深以上のかさ上げは非現実的
- 容積率の緩和
→ 容積率緩和するエリアの検討が必要



人的被害最小化対策

- 避難所整備
→ 別エリアの避難所設定は高齢者に困難。
- 地域ハザードマップ作成
→ 地域による温度差の解消
避難経路の確認
- 自主防災組織との連携
→ 連携方法の確認
- 広域避難
→ 受け入れ先との協定要

※現時点での検討内容